

## 西部地区再整備事業の進捗について

### 1 共創のまちぐらし推進プロジェクト

#### ■令和7年度（2025年度）

##### (1) 函館西部まちぐらし共創サロン

- ・市民やまちづくりに関わる参加者が西部地区の未来について考え、語り合う場として、市および株式会社はこだて西部まちづくRe-Design共催（協力：函館市西部地域振興協議会）により令和4年（2022年）7月から開催しており、今年度は2回開催

##### ①親子歴史さんぽ元町探検隊

- ・開催日時：6月21日（土）午前10時～正午
- ・開催場所：函館市地域交流まちづくりセンター、旧函館区公会堂ほか
- ・開催内容：小学校4年生以上の親子を対象に西部地区への関心を深める機会としてまちあるきを実施
- ・連携団体：函館観光ボランティア一會の会、函館市教育委員会、函館市地域交流まちづくりセンター
- ・参加者数：17名（うち児童8名）



##### ②ごきげんな街はどうつくる？

- ・開催日時：7月12日（土）午後1時30分～午後4時
- ・開催場所：函館市青少年研修センター
- ・開催内容：空家問題についてリノベーションによる利活用を促すためのヒントを探り、考える機会としてトークイベントを実施
- ・連携団体：株式会社Staple
- ・講師：株式会社旧三福不動産 代表取締役 山居 是文 氏  
合同会社箱バル不動産 代表 蒲生 寛之 氏
- ・参加者数：30名



## (2) 株式会社はこだて西部まちづくRe-Designによる取組

### ①アーティストインレジデンス

- ・地域内外の民間事業者等と連携し、首都圏等からアーティストを招へいし、地域内外に向けて西部地区の魅力を発信する事業を令和4年度（2022年度）から実施
- ・今年度は、写真家とミュージシャンを招へいし、ローカルツアーやトークイベントを実施したほか、制作した作品の発表とともに、西部地区で活動する民間事業者によるトークイベントを東京都で実施

### ②観光コンテンツ開発

- ・不動産価値の向上や人流の創出を促進するため、HWeRや地主、民間事業者などにより箱館旧市街まちづくり協議会（事務局：株式会社はこだて西部まちづくRe-Design）を令和5年（2023年）9月28日に設立（令和8年（2026年）1月に一般社団法人化）
- ・今年度は、地域内外の民間事業者等に働きかけ、観光庁「地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業」に応募・採択され、歴史的建造物での食事体験など、5つの観光コンテンツを開発・販売

## (3) 民間主体の取組に対する後押し

- ・市民等のまちづくりへの関心を高め、市民等の創意工夫によるまちぐらしの実現に向けた取組を推進
- ・北海道函館西高等学校の探究学習への協力を令和4年度（2022年度）から継続
- ・今年度は、一般社団法人函館青年会議所主催「Loop」に対して備品調達や広報に関する協力を実施

## ■令和8年度（2026年度）

函館西部まちぐらし共創サロンを開催（3回予定）するほか、教育機関や民間団体等の取組を後押しし、市民等が主体となるまちづくりを推進

## 2 既存ストック活性化プロジェクト

### ■令和7年度（2025年度）

#### (1) 重点整備街区再整備事業

- ・合意形成が図られ未接道などが解消された敷地 18筆

#### (2) 民有不動産再整備活用事業

##### ①歴史的建造物の利活用促進

- ・未利用となっている歴史的建造物を魅力ある施設として活用する取組を支援するため、内部改修に要する経費の一部を補助する制度を創設

##### ②所有者不明の建築等調査支援

- ・西部地区都市景観形成地域において、登記簿情報だけでは所有者が判明せず、所有者調査が困難な場合に、市が調査を支援

- ・11件の調査 ⇒ 4件のマッチング成立

#### (3) 公有不動産再整備活用事業

- ・西小・中学校跡地およびともえ団地跡地について、通年でサウンディング調査を実施

	西小中学校跡地	ともえ団地跡地
問合せ (件)	8	2
サウンディング調査への参加 (件)	2	0

西小・中学校跡地の一部において、道営住宅工事着手（令和9年3月完成予定）

#### (4) 株式会社はこだて西部まちづくRe-Designによる取組

##### ①歴史的建造物等の面的整備

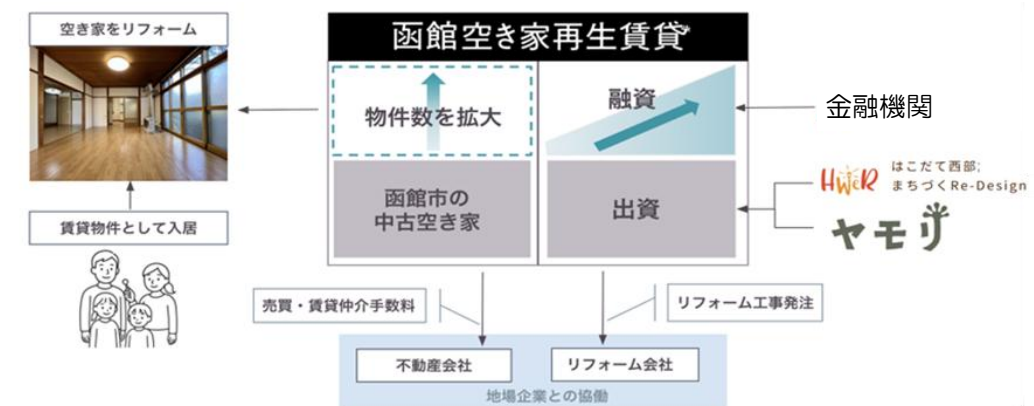
- ・観光庁の「歴史的資源を活用した観光まちづくり推進事業」を活用し、点在する4件の歴史的建造物等を面的に整備開始



##### ②函館空き家再生賃貸株式会社による空き家の活用

- ・西部地区の空き家問題を解決し、居住人口の増加につなげるため、株式会社ヤモリとの共同出資により令和7年（2025年）6月19日に函館空き家再生賃貸株式会社を設立

- ・活用済 2棟
- ・改修中 3棟



### ■令和8年度（2026年度）

重点整備街区再整備事業ならびに民有不動産再整備活用事業については、HwERや公益社団法人の関係協会など、専門的なノウハウを持つ民間事業者と連携しながら、引き続き所有者と協議を行い、低未利用不動産の流通を促進

公有不動産再整備活用事業については、引き続きサウンディング調査を実施し、跡地の早期かつ有効な活用に向け努力

### 3 町会活性化プロジェクト

#### ■令和7年度（2025年度）

##### (1) 谷地頭町会

- ・前年度から引き続き、谷地頭町会をモデル町会として取組を継続して実施

##### ①防災訓練の見直し

- ・今年度の防災訓練は、企画部地域デジタル課が取り組む「市公式LINEの防災分野への応用」を検証するための実証実験と共同実施とし、LINEを活用した「避難所デジタルチェックイン」と「避難所外にいる避難者への物資支援」を追加し実施
- ・実際の避難時には、谷地頭の住民だけでなく、青柳小学校が避難所になり得る住民の参加を促すことが効果的であると考えられることから、青柳小学校の児童に対してチラシを配布したことにより、町会単独の活動を越えた訓練に発展

- ・開催日時：9月28日（土）午前10時～正午
- ・開催場所：青柳小学校
- ・参加者数：約50名



##### ②デジタル化の促進

- ・谷地頭町会公式Instagramを新たに開設
- ・防災訓練等の町会行事のほか、地域の日常の様子など、継続的に投稿し、運用中



##### (2) その他

- ・北海道函館西高等学校の探究学習において、町会をテーマに取り組む生徒に対し、町会活動への理解や町会関係者との接点づくりに向けた支援を実施



#### ■令和8年度（2026年度）

各町会の意向や取組状況を把握しながら、必要に応じて町会同士の連携を促すほか、地域内外の団体や企業の協力を得ながら、西部地区全体の町会活性化を推進

## 4 その他

### ■令和7年度（2025年度）

#### (1) 景観まちづくりフォーラム

- ・西部地区の歴史的町並みや美しい景観を再認識し、景観に対する市民意識の醸成を図ることで、西部地区ならではの魅力を将来にわたり受け継ぐことを目指して、函館景観まちづくり協議会との共催により令和6年度（2024年度）から実施
- ・開催日時：10月4日（土）午後1時30分～午後4時30分
- ・開催場所：函館市地域交流まちづくりセンターほか
- ・開催内容：「まちの歴史を知り、町並みを未来へつなぐ」をテーマに、講話、まちあるき（3コース）、ワークショップを実施
- ・参加者数：46名



#### (2) 開港5都市景観まちづくり会議

- ・安政5年（1858年）に開港港に指定された函館、横浜、神戸、長崎および新潟の5都市の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもって育て、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的に、平成5年（1993年）から持ち回りで開催
- ・今年度は神戸市にて開催され、函館景観まちづくり協議会とともに参加
- ・開催日：11月29日（土）～12月1日（月）
- ・開催場所：Stage Felissimo Hallほか
- ・開催内容：基調講演、パネルディスカッション、分科会（まちあるき）、行政会議など
- ・参加者数：167名（うち函館市14名）

#### (3) 函館市都市景観賞

- ・都市景観の形成に寄与したと認められる建築物等その他の物件の所有者等、設計者、施工者その他関係者または都市景観の形成に貢献したと認められるものを表彰しており、平成7年度（1995年度）から実施（前身の西部地区歴史的景観賞は平成元年度（1989年度）から実施）
- ・募集期間：6月1日（日）～7月31日（木）
- ・応募件数：85件（建築物部門84件、まちづくり活動部門1件）
- ・受賞物件：函館国際ホテル（建築物部門）

### ■令和8年度（2026年度）

景観まちづくりフォーラムを開催するほか、開港5都市景観まちづくり会議長崎大会に参加するとともに、都市景観賞の表彰を実施し、景観まちづくりに対する意識の醸成を図り、景観を守り育てることにより、西部地区ならではのまちぐらしの実現に向けた取組を推進